

實施を見、進んで労働者の産業管理に參與の趨勢を生みつゝある。然るに我が國に於ては、産業の不況に當つては先づ大量解雇、賃銀値下げを始めとして労働條件の低下による労働者の犠牲の強制を見るも、之に反し産業の好況生産の増加に向ふも先づ資本の配當は激増するも労働者の賃銀は依然として容易に増加を見ない。是れは一面労働者團結の自由なく、勞資の力の平衡を失するに原因すると雖ども、かゝる現象は産業界和産業協力の精神を蹂躪するのみならず、労働者生活を壓迫し引いて労働大衆の購買力を阻止し、産業の發達を阻害するものである。

之を我が國の實際に見る。本年上半期に於ける決算の重要産業會社六十九社綜合成績による利益率は次の如くである。

	八年上期		八年下期		九年上期	
	食料品類	二四・九	二四・九	二三・八	二六・八	二六・八
綿糸紡績	二六・〇	二八・〇	二八・〇	三三・六	三三・六	三三・六
雜織雜業	三七・一	三七・九	三七・九	三六・〇	三六・〇	三六・〇
窯業	二三・〇	二八・〇	二八・〇	二六・四	二六・四	二六・四
化學工業	二五・五	一七・四	一七・四	一七・五	一七・五	一七・五
造船工業	八・二	一二・〇	一二・〇	一二・九	一二・九	一二・九
鑛業精煉	二二・二	二三・二	二三・二	二六・二	二六・二	二六・二
石油石炭	一一・七	一三・六	一三・六	一一・三	一一・三	一一・三

利益率は %

之に對し、日本銀行の賃銀統計によると労働賃銀指数は次の如くである。

定額賃銀指数(大正十五年基準一〇〇とす)

	總指數		男工		女工	
	昭和六年平均	九一・三	九一・五	八七・九	八七・九	八七・九
昭和七年平均	八八・一	八八・八	八三・四	八三・四	八三・四	
昭和八年平均	八五・一	八六・二	七九・九	七九・九	七九・九	
昭和九年四月	八三・〇	八四・二	七七・九	七七・九	七七・九	

而して資本配當につき之を今一番利益率を擧げてある紡績業に就て見れば本年の上半期に於ける配當は左の如くである

	東洋紡		鐘紡	
	岸和田紡績	一割五分	倉敷紡績	一割二分
大日本紡績	一割			

而も紡績産業は比較的我が國に於ける労働賃銀が低廉であつて、女工の初任給は二十五錢より三十五錢である。而も一方物價は騰貴しつゝある。

而して紡績女工は何れも多く農村の出身である。即ち労働賃銀の低廉は單に都會の労働者のみの問題に非ず、農村の窮乏と其の購買力に關係を有し、農村救済の對策の一は茲に存するのである。かゝる見地より我等は我が國に於ける労働賃銀引上げのために加盟各組合は積極運動を開始し、其の實現を期さんとするものである。